# 救うことを、つづける。 ～日本赤十字社の災害救護活動～

日本赤十字社富士見町分区　富士見町赤十字奉仕団（住民福祉課社会福祉係　☎62-9144）

東日本大震災、熊本地震災害、九州北部豪雨、西日本豪雨、御嶽山噴火災害等、日本各地で起こる災害。

日本赤十字社では、いのちを守るため、いつでも、どこへでも災害救護活動を行います。7月西日本豪雨災害においては、日本赤十字社長野県支部より、広島県呉市に救護班が派遣されています。

## 日本赤十字社の災害救護活動

### 〈医療救護班、医療スタッフの派遣〉

直ちに被災地や事故現場へ医師・看護師、こころのケア支援要員等を派遣します。

### 〈救援物資の配布〉

被災地へ救援物資（毛布、救急セット、安眠セット等）を届けます。

### 〈復興支援〉

生活再建、福祉サービス、教育、医療支援の実施

### 〈平成28年熊本地震災害での実績〉

○医療救護班 … 207班　約1,600人
○医師・看護師ら支援要員 … 約300人
○こころのケアチーム … 149人
○救急セット … 654セット
○毛布 … 22,480枚
○安眠セット … 7,551セット

# 子育てはたくさんの笑顔とたくさんの手で ～子どもの場所から～

NPO法人ふじみ子育てネットワーク　☎62-5505

## 全国高等学校総合文化祭「2018信州総文祭」　高校生の力は無限大

▲開会式前のおもてなしステージ

高校生の文化芸術の祭典「全国高等学校総合文化祭」が、今年は長野県で開催されました。８月７日から11日まで、長野県下17市町を会場に、約20,000人の高校生が日本全国はもとより、海外（アメリカ合衆国、オーストリア共和国、中華人民共和国、大韓民国）からも集まり、演劇、音楽、舞踏、郷土芸能、バトントワリング、美術、工芸、書道、写真、放送、囲碁、将棋、弁論、百人一首、新聞、文芸、自然科学、などの部門ごとに、日頃の活動の成果を発表しました。

この国内最大級の高校生の文化の祭典を中心となって支えたのは、地元長野県の高校生たちでした。生徒実行委員会を組織し、大会の企画やおもてなしなどを主体的に検討し、自校だけでなく他校の生徒や教職員、そして地域社会とも積極的に関わり、大会実現に取り組みました。実行委員に志願した時から、当日を迎え、無事大会が終わり、振り返りをするまで全ての過程が、彼らにとってかけがえのない経験であり、生きる力の源となったことでしょう。

広報や総務などの部会で、当日まで何度も話し合いや作業を繰り返し、開催期間中は各会場入口で来場者を笑顔で迎え入れる、場内でうちわを配る、セキュリティーチェックの列の誘導をする、座席を案内する等、黒子の役割を精一杯果たした高校生たち。また、開会式で、ダンス、チアリーディング、演劇、和太鼓やオーケストラ・合唱の演奏などでオープニングにふさわしいレベルの高いステージ発表を披露し、来場者の心を震わせた高校生たち。どちらもひとりひとりの表情には充実感が溢れていました。

“「私たちが創った総文祭」⇒「私たちを創った総文祭」”。開会式のステージバックに映し出された文字に、彼らがそれぞれ何かを心にしっかりと掴んだということが表現されていました。

全ての高校生が、今しかできないことに情熱をかける経験を、自分で選びとってできる多様な環境があることは、素晴らしいことだと感じました。